

白藍塾オリジナル

2011入試小論文分析&解答のヒント

2011年3月発行

白藍塾の入試小論文分析は、他の予備校と違って、その問題に対して受験生がどのようにアプローチすればよいのかを具体的に説明している。そのため、この分析を参考にすれば、誰でも合格レベルの答案を書けるはずだ。該当の大学・学部の志望者は、ぜひ、これを読んで、自分で実際に答案を書いてみてほしい。

執筆・樋口裕一・大原理志・大場秀浩

●慶応・総合政策学部

例年通り資料の数が多く、今回は英文資料や図表まで含まれているので、最初は驚くかもしれないが、じつは資料をていねいに読む必要はほとんどない。冒頭の問題文の中で各資料の内容が簡単に説明されていて、それを読めば十分と言えるからだ。とくに、英文の資料1については、問題文での要約説明がほとんどすべてと言ってよい。

資料1は、問題文にあるように、「総合政策学的アプローチ」とは何かを説明している。「重要なのは既成の枠組みのなかで考えるのではなく、新たな枠組みを設定すること。そのためには、様々な側面をズームしながら全体を俯瞰する、全体的なパースペクティブを持つことが必要だ」という点がポイント。

資料2と資料3は、合わせて理解すべきだろう。資料2は、日本の「豊かさ」や国際競争力が低下しつつある現状を指摘している。それに対して、資料3は、日本人の多くがそうした現状に不満を感じていることを指摘した上で、「経済的な豊かさのみを追い求めるのではなく、個人が幸せを感じることができる環境づくりを目指している」というプータンの取り組みを紹介している。

資料4は、「部分最適から全体最適へと企業経営のあり方を改めるべきだ」という内容。

資料5は、昨年話題になった哲学者マイケル・サンデルの提言を紹介して、今、社会的な「正義」について考えることが求められていること、だがそれを政治が押しつけるのではなく、市民がみずから議論し、政治に要求することが重要であることを説明している。

資料6は、これからの科学のあり方について述べているが、そのまま「総合政策学的アプローチ」のくわしい説明になっていると言ってよい。

これらの資料を参考にして、問1では、自分で日本を「デザイン」するとして、①どのような日本が良い日本か、②その根拠となる価値観とは、③どのように実現するか、の三点を説明することが求められている。「デザイン」という言葉に引っかかるかもしれないが、要は、これからの日本のあり方を自分なりに考え、なぜそう考えるか、それを実現するにはどうすべきかを説明すればよい。どちらかと言えば、環境情報学部でときどき出題される形式の問題だ。とはいえ、テーマ自体は従来の総合政策学部らしいものなので、書き方さえ間違えなければ、そう難しい問題ではない。

「紙上講義（様々な書き方・知識編）」で紹介している「プレゼンテーションを求める問題」の書き方を使って、第一部で①をずばり示し、第二部で「確かに、他にもこういう考え方があるかもしれない。しかし、これからの時代はこういうあり方こそが好ましい」などと書き、第三部で②と③を説明するとよい。あるいは、①②③をそれぞれ第一部、第二部、第三部に割り当てる書き方もできる。

①と②については、資料1～3と5が参考になる。「日本は経済的な豊かさを追い求めるのをやめ、文化的・精神的価値を確立するべきだ」「自然との調和を重視し、環境立国を目指すべきだ」「自立した市民が社会的公正を実現できるように、成熟した市民社会を目指すべきだ」等、いくつかのアプローチが可能はずだ。

③については、次の問2の答えと整合性が取れるように多少意識して考える必要がある。

問2は、問1を解題する過程で考えた「総合政策学的アプローチ」を説明することが求められている。

一見つかみどころのない設問だが、問題文で、資料1の内容が「総合政策学のアプローチの主要な部分」と説明されていたことを思い出せばよい。つまり、「総合政策学的アプローチ」とは何かということは、問題文の中ですでに説明されているわけだ。また、資料6も、「総合政策学的アプローチ」について考えるうえで参考になる。そこで、最初にそれらを踏まえて「総合政策学的アプローチ」とは何かを自分なりに簡潔にまとめ、次に段落を変えて、問1の内容に即して、それをもっと具体的に説明すればよい。書き方としては、基本型Aの応用になるだろう。

©執筆者の許可なく本紙の全部もしくは一部を無断転載、無断複写することを固く禁じます。

発行・白藍塾総合情報室（03-3369-1179）

<http://www.hakuranjuku.co.jp>